

平成 27 年度フォローアップ結果への対応状況

機関名	東北大学				
統括責任者	役職	総長	実施責任者	部署名・役職	理事（研究担当）、研究推進本部長
	氏名	里見 進		氏名	伊藤 貞嘉

平成 27 年度フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

全体を通じた所見

- 研究推進本部の下、彼我の研究力分析が的確になされ、ベンチマーク大学を国外から 6 校、戦略的海外連携校 12 校を選定し、世界に開かれた知の国際共同体の形成に向け、ダイナミックに船出している。また、極めて具体的に達成目標を数値で示し、その達成に向けて制度の構築・整備が順調に進められていることが確認された。

特に優れた点

- 訪問滞在型研究センター「東北大学知のフォーラム」が具現化し、その屋台骨を URA センターが支えることにより、国際公募も含め、若手研究者への効果的なアピールができています。
- URA の経験知を海外を含む他学と共有し、URA 全体のスキル向上と職域確立に役立てることを目指している。

期待する点

- URA の重点化スキルの取りまとめ、URA 人事労務制度の整備について早期の実現を期待する。

平成 27 年度フォローアップ結果コメントに対する事業の課題と展望

○URAの重点化スキルの取りまとめ

本学においては、平成28年2月に「国立大学法人東北大学におけるリサーチ・アドミニストレーターに関する細則」(以下、「細則」という。))と「国立大学法人東北大学リサーチ・アドミニストレーターの評価に関する実施要領」(以下、「実施要領」という。))を定めた。細則の中で、リサーチ・アドミニストレーター(以下、「URA」という。))の職務内容を定めているが、RU11が定めたスキル標準を参考にしつつ、前述の職務内容を踏まえ本学のURAに求める「重点化スキル」を取りまとめ、それを取得し認定するためのコースを設定し、今年度中に決定する。

なお、全学に採用されているURA及び類似職を構成員としたURA連携協議会を平成27年度より月に1回の頻度で開催しており、活動の一つとしてスキルアップセミナーを同時開催し、これまで下記について学内のURA等より講演等を実施し、スキル向上を図っている。

- ・ Society 5.0 について
- ・ Scopus データベースを用いた研究力の分析法について
- ・ 科研費制度の改革について

今後も、研究力分析手法の成果報告等をテーマとしたセミナーの開催を予定している。

○URA人事労務制度の整備

本学はこれまで、URAを学内の各種規程で定めておらず運用によっていたが、平成28年2月にURAの定義や職務内容、呼称、選考手順、並びに給与について定めた。これにより、これまで学内で曖昧であったその定義や職務内容等を統一化し、本学としてのURAの位置付けを明確なものとした。本細則の制定以降、新たに本学でURAとして採用する者については本細則に定めた選考方法に基づき選考を行い、その職種に応じてそれぞれ以下のとおり学内外で称することが出来ることとした。

職種	呼称
特任教授	首席リサーチ・アドミニストレーター又は首席URA
特任准教授	上席リサーチ・アドミニストレーター又は上席URA
特任講師	主任リサーチ・アドミニストレーター又は主任URA
特任助教	リサーチ・アドミニストレーター又はURA

なお、本細則の制定前にURAに類する職に従事していた者は、本細則の制定後に細則に基づく選考委員会を開催し、それまでの職務状況等により個別に判断し、細則に基づく本学のURAとして認めた。

細則とともに定めた「実施要領」では、URAの評価に関しその定義、評価者及び評価会議の構成等について定めている。評価の対象期間は1年間とし、評価の結果はURAの能力開発や人材育成、人材配置及び処遇等に活用することとしている。

現在は、適切な評価の運用に基づくURAのキャリアパスの構築について、学内全体で議論を進めている。

一方、「特に優れた点」と評価をいただいたURAの活躍について、本学に所属するURAが総合科学技術・イノベーション会議やRA協議会等の学外のネットワークに積極的に参加し、そこで得た知見等を先述の連携協議会等で共有し、且つ日頃の活動状況を報告・意見交換し高めあう環境が確立しており、今後も推進していく。また、平成28年1月に総長直轄組織として新設したインスティテューショナル・リサーチ(IR)室と今後連携し、本学の更なる研究・教育力の向上に繋げるべく活動を展開していく。

○その他

本事業により掲げた「知の国際共同体」の形成のため推進している「東北大学知のフォーラム」については、昨年度のフォローアップにて「特に優れた点」と評価をいただいております。今年度は4件のプログラムを実施(予定を含む)している。2018年度プログラムの公募には9件(学外1件を含む)の応募があり、4件程度に絞り込みを行うこととなっている。今後、知のフォーラムの更なる認知度向上、応募件数の増加及び成果の発信等を目的として積極的な広報活動を引き続き実施する。

他、優秀な若手研究者をベンチマーク校に派遣する「若手リーダー研究者海外派遣プログラム」を更に推進し、将来のグローバルリーダー育成を進めるとともに、外国人研究者・学生の受入機能を担う高等研究機構国際事業推進室と留学生課国際交流サポート室の体制強化を進めることで学内受け入れ手続きを迅速化し、国際共同研究の増加、更には被引用論文数の増加に繋げ本学の研究力強化を推進する。

研究大学強化促進事業推進委員会コメント

○ URAの制度上の位置付けが、重点化スキルとリンクして明確になり、その結果、URAのキャリアパスが構築できる段階にまで至った点は、進展が見られる。

○ 優れた取組である「東北大学知のフォーラム」の発展が見られ、今後に大いに期待したい。また、これまでのURAの経験知を国内外の大学と共有し、「知の国際共同体」の形成に向けた先進的なモデルとなることを期待する。